

動労連帯連続学習会

日時 2017年2月24日(金) 18:00~
場所 荒川公民館

『フクシマの今』

講師 動労福島 倉岡 雅美



倉岡さんは3.11を福島で経験し、昨年の熊本地震では熊本県益城町の実家が半壊するという経験をしています。

今回は、3月末に飯館村、川俣町山木屋地区の避難指示が解除されるという状況で帰還と被曝の強制がさらに強められようとしている福島の実情について話してくれます。



＜原発事故による避難指示解除（帰還困難区域を除く）を来月末に控えた飯館村で12日午後、長期宿泊の登録者を対象にした住民懇談会が開かれました。国と村の共催で、会場の交流センター「ふれ愛館」には43人の村民が参加。メディアを締め出しての「密室、懇談会に、村民から不満の声も出た。被曝リスクだけでなく、防犯や介護、買い物や営農再開など多くの不安があがった。長期宿泊の登録者は381人で、対象住民の約6.5%。春からは少ない高齢者が点在して暮らす事になる。村に戻る人の方が圧倒的に少ないが、戻る村民でさえ「フレコンバッグを見ながら生活しなければならない。精神的におかしくなる」、「先日、村民の孤独死が見つかった。村でも同じような事が起きたらどうするんだ」などと厳しい声をあげた。＞



飯館村に仮置きされたフレコンバッグの山



主催 国鉄高崎動力車連帯労働組合



doro.rentai.formed1986@gmail.com